

「ブロックチェーン技術概論 理論と実践」正誤表

最新情報は、サポートページ (<https://github.com/blockchain-programming/book2021>) をご覧ください。

左に * がついているものは、第2刷で訂正済です。

2022年8月26日時点

ページ	場所	誤	正
* v.	一番下の行	(一番下の行に追加)	4.6 秘密計算……………102
* 22	上から1行目	計算コストと考えます。	計算コスト *6 と考えます。
23	上から7行目	小さくなります。	大きくなります。
* 31	上から11–12行目	メカニズム使用した	メカニズムを使用した
* 54	上から11行目	1996年	1994年
* 70	下から2行目 (参考文献 [2])	誤: https://cryptorating.eu/whitepapers/イーサリアム/イーサリアム_white_paper.pdf 正: https://cryptorating.eu/whitepapers/Ethereum/Ethereum_white_paper.pdf	
* 75	上から16, 19, 22行目	生成限 g	生成元 g
* 93	上から10行目	公開鍵暗号と使って	公開鍵暗号を使って
* 99	上から6–8行目	誤: R については楕円曲線離散対数問題が困難であるという前提から rG の r を知ることは不可能とし、 $s = (r + ed) \bmod n$ と $s = r$ が同じエントロピーをもつことを考えると検証者にはこの2つの確率変数はともに乱数と区別できません。したがってゼロ知識性 正: 楕円曲線離散対数問題が困難であるという前提から、 $R = rG$ から r を知ることや $eP = edG$ から ed を知ることは不可能です。 $s = (r + ed) \bmod n$ と $s = r$ の s は確率変数として区別できないので ed はわかりません。したがって d に関するゼロ知識性	
* 100	下から2行目	誤: 対偶をとれば「間違った命題は証明できない」ということになります。 正: 対偶をとると「偽なる命題は証明によって否定される」ことになります。	
* 102	下から9行目	秘密計算	4.6 秘密計算
* 103	上から9行目	ブラックリーの (t, n) しきい値秘密分散法の例	ブラックリーの (t, n) しきい値秘密分散法の簡単な例

ページ	場所	誤	正
* 103	上から 10 行目	してみましょう。	してみましょう (図 4.14)。
* 103	下から 4 行目	誤：ブラークリーの (t, n) しきい値秘密分散法は、空間の次元を変えることで、 正：ブラークリーの (t, n) しきい値秘密分散法では、シェアを秘密情報の点 s とランダムな点 r を通る t 次元空間の中の $(t - 1)$ 次元超平面とすることで、	
* 121	上から 6 行目	ビットコインの	ビットコインを
130	上から 3 つ目のコード	誤：(実行結果が途中で切れています) 正：サポートページ (https://github.com/blockchain-programming/book2021) に完全版を掲載しています。	
* 134	下から 3 行目	2140 年	2141 年ごろ
* 134	下から 2 行目	210000 btc	21000000 btc
* 134	下から 1 行目	$210000 = \sum_{i=0}^{\infty} 210000 \frac{50}{2^i}$	$21000000 = \sum_{i=0}^{\infty} 210000 \frac{50}{2^i}$
* 135	上から 11, 15 行目	係数	係数 (のリトルエンディアン)
* 135	上から 16 行目	誤：0x 00000000 0004864c 00000000 00000000 00000000 00000000 00000000 00000000 正：0x 00000000 004c8604 00000000 00000000 00000000 00000000 00000000 00000000	
* 151	表 6.8 の説明	(行は前半 2 ビットで後半 3 ビット)	(行は前半 2 ビットで、列は後半 3 ビット)
* 151	上から 13 行目	フォーマット	フォーマット
* 167	上から 7 行目	ゲーム論	ゲーム理論
* 168	上から 7 行目	ゲーム論	ゲーム理論
* 221	下から 1 行目	ZK-Rolleup	ZK-Rollups
* 224	上から 20 行目	Locked	Lock
* 341	上から 4 行目	加法逆元演算 $-a$	加法逆元
* 347	下から 4 行目	$\theta^1 = 1$	$\theta^1 = \theta$
* 350	上から 9 行目	点を R'	点 R'

ページ	場所	誤	正
* 351	上から 6 行目	$\{(x, y) \mid x, y \in GF(p)\} \cup \{(\infty, \infty)\}$	$\{(x, y) \mid x, y \in GF(p)\} \cup \{(\infty, \infty)\}$. ここで (∞, ∞) は無限遠点 O .
* 352	上から 9 行目	$(x_3, y_3) = (\lambda^2 - x_1 - x_2, \lambda(x_3 - y_1) + y_1)$	$(x_3, y_3) = (\lambda^2 - x_1 - x_2, \lambda(x_3 - x_1) + y_1)$